

4-1 江戸川区における地域公共交通活性化・再生総合事業

江戸川区地域公共交通総合連携計画の目標

南北移動には複数回の乗継ぎが必要という区内南北交通の課題を解決するため、基幹公共交通軸として南北に走るシャトルバスを導入し、人と環境にやさしい公共交通システムとして、速達性・定時性向上に効果的な走行環境整備を図る。

20年度事業の実施状況

1. 事業の内容

1) 南北を結ぶシャトルバスの実証運行

- 運行期間 : H20.4～H21.3
- 運行ルート : 小岩駅・亀有駅～葛西臨海公園駅、
東京ディズニーリゾート(TDR)
- 運行本数 : 平日100便、土休日96便
- 運賃 : 都内200円均一(TDRまでの利用:200円～400円)
- 運行事業者 : 京成バス(株)

2) 車両のラッピング



環七シャトルバス「シャトル☆セブン」

3) モデルバス停の整備



江戸川区地域公共交通活性化協議会

江戸川区、葛飾区、足立区、東京都、東京バス協会、京成バス(株)、京成タウンバス(株)、東京都交通局、学識経験者、道路管理者、交通管理者、関東運輸局

【事務局】江戸川区まちづくり調整課内
03-5662-1103

4) サポーター制度の実施

環七シャトルバスのPRや利用促進を目的に情報提供を行い、意見収集等を行う。740名の登録があり、年4回「サポーター通信」を発行している。



2. プロセス、創意工夫

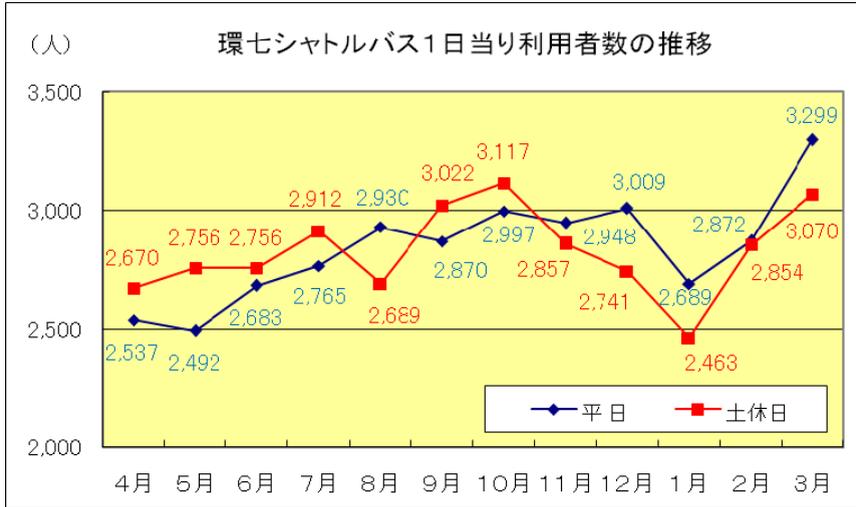
- 事業性を確保するため、区の範囲を超えた隣接区市に渡る路線を設定。
- 運行車両には、一目見てシャトルバスとわかるよう、インパクトのあるデザインのラッピングを施した。
- 事業継続にあたっては、安定的な利用者数の確保が課題であり、そのため、バス接近情報等を提供できるモデルバス停を整備し、利便性や快適性の向上を図る。
- また、協議会において、急行バスとしての速達性や定時性の確保を図るため、走行環境改善方策の協議・検討を重ねている。
- 利用促進に向けた取組みとしては、環七シャトルバスの認知度を高めるため、ポスターの掲示や広報誌への掲載を始め、サポーターへの情報発信や意見収集を実施。
- また、多種多様な地域住民の声をより広く収集するため、利用者アンケートを実施し、事業継続に向けた実施事業の見直しを図っていく。

3. 事業費等(単位:千円)

■総事業費	218,155	●運賃収入等	206,685
		●地域負担	7,230
		区補助金	6,600
		事業者負担金	630
		●総合事業費補助金	4,240



4. 利用実績



6. 今後の課題

- 利用者の安定的な確保(事業の確立)
- 利便性、快適性を高めるバス停整備の在り方
- 速達性、定時制の向上のための走行環境整備の検討
- 環七シャトルバスにふさわしい、魅力あるバス車両の導入

21・22年度の事業予定

- シャトルバス本格運行……………平成21年4月
- バス停整備(情報発信型)……………平成21年度・平成22年度
- 走行環境改善への取り組み(バスレーン・PTPS)…平成21年度・平成22年度
- 専用車両検討・導入……………平成21年度・平成22年度

5. 事業実施効果

■区の骨格を形成する南北方向の幹線的公共交通として、利用者は全体的に増加してきており、平日は通勤・通学利用、休日はレジャー利用の用途が高い。移動ニーズの高い南北交通の改善が図られている。

■交通不便地域を考慮したバス停の設置も行っており、便利になったとの声が多いが、さらに運行本数の増便の要望がある。交通サービスにおける地域格差の是正に対する効果が見られる。

■今までの複数回の乗り継ぎによる時間的・経済的な負担が軽減され便利になったという意見が区民から寄せられている。

※ 小岩駅～葛西臨海公園駅の利用について

これまでは…バスの乗り継ぎ

「小岩駅(京成バス)～葛西駅(都営バス)～葛西臨海公園駅」

乗継 65分(乗継時間含む)、410円



環七シャトルバス「小岩駅～葛西臨海公園駅」

36分、200円

⇒ 29分短縮、210円軽減